

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次のa～dの各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 優勝旗を奪還する。 (1) けんじょう 2) へんかん 3) だっかん 4) そうだつ)
b 舞台での演技は完璧だった。 (1) あっかん 2) かんぜん 3) ばんぜん 4) かんべき)
c しょうゆを地下に貯蔵する。 (1) ちよぞう 2) ちよちく 3) かくのう 4) ちくせき)
d 山々が夕日に映える。 (1) さ 2) は 3) まじ 4) そび)

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 隣国とシンゼンを深める。
1) いちじるしくシンボする。 2) シンリンの減少による生態系の破壊を防ぐ。
3) 結婚式でシンゾクを紹介する。 4) 君主がシンカに外交について問う。
b 何日か温泉宿でトウジし体調を整える。
1) 器材をネットウで消毒する。 2) 暖房器具に入れるトウユを買う。
3) 活発なトウロンが行われる。 4) コーヒーにサトウを一さじ入れる。

c ヘイイな言葉遣いで表現する。

- 1) イシとなるために免許を取得する。 2) チャクイを整え面接に臨む。
3) イサンを抑える薬を服用する。 4) 無駄を省いたカンイな包装にする。

d 二人の身長をクラべる。

- 1) 作品の評価にサンビが分かれる。 2) 色彩のヒリツを変える。
3) 生命の起源のシンピを探る。 4) ヒガンの全国制覇を達成する。

(ウ) 次の各文のうち、敬語の使い方が適切でないものを一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1) 土曜日の午後にかがいます。
2) 雨が降る前に早くお帰りください。
3) お客様を建物の外まで迎えに参ります。
4) 新鮮なうちに果物をいただいてください。

(エ) 次の文章中の□に入れることわざとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

姉が商店街の福引きで春休みの旅行を当てた。他に行ける人がいなかったの、思いがけずも私が一緒に行くことになり、名所や名物を楽しむことができた。まさに□だと思った。

- 1) 棚からぼた餅
2) 雨後のたけのこ
3) 青菜に塩
4) 豆腐にかすがい

- (オ) 次の例文中の——線をつけた「に」と同じはたらきをする「に」を含む文を、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 新しい飲食店が駅前^に開店した。

- 1 晴れているのに雷の音が聞こえる。
- 2 列車がまさに^に出発しようとしている。
- 3 山の上に白い雲がかかっている。
- 4 実習先へのお礼状を丁寧^に書く。

- (カ) 次の短歌を説明したものととして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

著作権上の都合により省略

金子 薫園

- 1 初冬の暖かい日中を背景とし、空を飛んでいた鳥が窓から入ってくるという動的な面と、樹木の種子の地面に当たる音という静的な面を並べて表現することで、鳥の動きをきわ立たせて描いている。
- 2 冬の初めの暖かい日中を舞台に、窓越しに見える鳥のかげという目で捉えたことと、樹木から離れた種子が地面に当たるかすかな音という耳で捉えたことを交えて、穏やかなひとときを描いている。
- 3 初冬の暖かい日中を背景に、窓の向こうにいる鳥の羽ばたく音がしたこと、樹木の種子が地面に当たるところを目にしたのに音がかき消されたということを、種子の動きに着目して描いている。
- 4 冬の初めの暖かい日中を舞台に、窓には鳥の姿もかげも見えずに鳴き声が聞こえ、その後樹木の種子が地面に当たるかすかな音を耳にしたことで、周囲が静まったことに気づく様子を描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学校二年生の「戸田柚葉」は、物語を書くことを心の支えにしていたが、書いた物語が、「紗英」と「藍」、「ちひろ」を始めとする同級生たちに笑われたことをずっと気にしていた。ある日、「柚葉」は、自身の投稿した物語が使われたラジオの公開収録の現場で「朝佳」と出会った。「朝佳」は同じ中学校に通う二年生で、足の怪我のために陸上部を休部して落ち込んでいた。二人は仲良くなり、「朝佳」は「柚葉」に声を褒められたことをきっかけに朗読を始めた。「朝佳」が「柚葉」を説得し、「柚葉」の書いた物語を「朝佳」が朗読するライブが、文化祭で行われることになった。練習を重ねて本番を迎えたが、「朝佳」の調子が上がらず、ついに朗読が止まってしまった。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

（著作権上の都合により省略）

（上田 聡子「あの子の隣で待つ春は」から。一部表記を改めたところがある。）

（注）夏目さんⅡ「朝佳」に朗読の指導をしたことがある、朗読の仕事をしている俳優。南美Ⅱ「朝佳」と同じく陸上部に所属する生徒。

(ア) 線1 「気づけば柚葉は椅子から立ち上がった。」とあるが、そのときの「柚葉」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「朝佳」が笑われたことと自身の過去が重なって腹が立ち、冷静になろうと努めるうちに解決策を思いつき自身にとっては強い決意が必要だったものの、「朝佳」を助けようと衝動的に動いている。

2 「朝佳」を笑う声を聞いて自身が笑われたときのことが呼び覚まされて怒りを感じたが、予定通りに朗読を交替すればいいと思つて冷静になり、「朝佳」を助けるために勢いよく動き出している。

3 「朝佳」を笑う声によつて自身が笑われたときのことを思い出して怒りが湧いたが、心を落ち着かせようとするうちに解決策が頭に浮かんで、自身にできるのか悩んで迷った末に動き出している。

4 「朝佳」ではなく自身の作品が笑われているということに気づいて腹を立てたものの、冷静になつたときに事態を変えることにつながる朗読の交替という方法を思いつき、とっさに体が動いている。

(イ) 線2 「笑うなら、笑つてみなよ。」とあるが、そのときの「柚葉」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 自身に寄り添ってくれた「朝佳」にかわつて最後まで朗読しようと、笑われることを気にしないようにして集中のあまり周囲が見えなくなりながら、自身の作品と「朝佳」のために声を出している。

2 客席からずつと聞こえてくる笑い声を気にしないようにして、自身の書いた物語を「朝佳」にかわつて最後まで朗読したいと思ひ、自信をくれた「朝佳」のためにできる限り大きな声を出している。

3 自身と自身の書いた物語を信じる気持ちをくれた「朝佳」にかわつて、誰かに笑われたとしても気にせず最後まで堂々と朗読をやり遂げようと思つて、気持ちを奮い立たせて声を出している。

4 自身の作品に対して信じる気持ちをもてたことはないが、物語を朗読してくれた「朝佳」のために最後までやり遂げようと思ひ、笑われても気にしないようにしてできるだけ大きな声を出している。

(ウ) 線3 「柚葉ちゃん、ありがとう。もう大丈夫。」とあるが、ここでの「朝佳」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 自身のかわりに朗読した「柚葉」に感謝しつつ、朗読を再開するための心の準備が整わないままに途中から引き継ごうとして焦っているように読む。

2 自身にかわつて朗読した「柚葉」に感謝しつつ、交替したらすぐに上手な朗読を披露したいと思ひが表情に表れるほど興奮しているように読む。

3 交替して読んでくれた「柚葉」に感謝しつつ、朗読が止まった自身へのふがいなさに対する怒りのために平静でいられなくなっているように読む。

4 朗読を交替してくれた「柚葉」に対して感謝しつつ、心の落ち着きをすっかり取り戻して自身が続きを引き受けようと心に決めてるように読む。

(エ) 線4 「朝佳は深々とお辞儀をした。」とあるが、そのときの「朝佳」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「柚葉」に対して後ろめたい思ひを抱きつつも、物語を聞いてもらえたことに対して感謝すると同時に、物語の最後までずつとうまく朗読できなかったという事実を客席に対して謝罪している。

2 物語を書くことに挑戦する「柚葉」の影響で好きなことを見つけられたと思ひをもち、朗読を聞いてもらえたことに感謝しつつ、思っていたようにはできないところがあったことを謝っている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(ア) 本文中の A・B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | |
|---|---------|-------|---|-------|--------|
| 1 | A たしかに | B つまり | 2 | A さらに | B ただし |
| 3 | A したがって | B では | 4 | A むしろ | B ところで |

(イ) 線1「絶対に嘘をつかないこと」とあるが、そのことについて筆者はどのように述べているか。それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 自分が本当だと思っていることをいかなる状況でもそのまま相手に伝えているので、相手に対して誠実な態度だと言え、自分や相手を傷つけることはない。
- 2 自分が信じていることをいかなる状況でもそのまま相手に伝えてはいるが、思慮に欠けるように感じられる場合があり、自分や他人を傷つけることがある。
- 3 いかなる状況にあっても自分が本当だと思っていることをそのまま相手に伝えているので、嘘とは無縁であり、他人から尊敬の念をもたれるべきである。
- 4 いかなる状況にあっても自分の信じることをそのまま相手に伝えているが、自分は傷つくことがないのに相手を傷つけているので、尊敬されることはない。

(ウ) 線2「『率直』である」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 相手に対してごまかしたり嘘をついたりすることがなく、自分が信じていることを相手に話せるようになっていく状態のことであり、特別な内面性を形成し遂げているかは関係がないということ。
- 2 他人への不信はないが、自分の内面を相手に隠そうと気をつけている状態であり、話している内容と自分の頭に浮かんでいることが近いときでも、ありのままを伝えているわけではないということ。
- 3 他人に対する不信を知らず、自分の内面を隠すことを知らない状態であり、話す内容が自分の信じることと一致しているが、自分の意志を働かせ嘘をつくかどうか選択しているのではないということ。
- 4 相手に対して自分が信じていることをいつでもそのまま伝えていくだけでなく、絶対に嘘をつかないという意志に従って生きていく状態のことであり、特別な内面性を形成し遂げているということ。

(エ) 線3「『あの人は正直だ。』と賞賛を込めて言われる人」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 社会がいかなる場所かまだ認識していないものの、自分の信じていることを隠せるようにはなっており、嘘をつきたくなかったときには気持ちを抑えられるという、自分の都合に左右されない人のこと。
- 2 社会がいかなる場所かを認識しており、隠す気になれば自分の内面を隠すことができるが、嘘をつきたくなるときでも思いとどまっただけのことを言うという、精神的な力をもっている人のこと。
- 3 社会に対する認識をもち、自分の考えていることを隠すことができるようになっていく上に、嘘をついているにもかかわらず相手に気づかせずに状況を取り繕っているという、裏表のある人のこと。
- 4 社会に対する認識をもっているが、自分の考えていることを隠す能力をもっておらず、自分の都合が悪くなる状況であっても嘘をつきたくなる誘惑にかられることがないという、無垢な人のこと。

(オ) ―線4「ボルノーが言う『自分自身を見捨てる』こと」とあるが、それを説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 自分が相手に嘘をつくとき、自分自身が相手にやったことや思ったことを話すのに影響はないが、嘘をついた後悔に苦しめられて、相手と偽りのない関係を取り戻す希望が失われるということ。
- 2 自分が相手に対して嘘をつくとき、嘘を重ねていくことで嘘をつく前に戻れないという苦しみはなく、相手と自由に話せなくなると、相手との偽りのない関係が維持できなくなるということ。
- 3 自分が相手に嘘をつくことで、自分が望むようには振る舞えなくなり、嘘をつく前に戻れないという苦しみに自分で自分を閉じ込め、相手との偽りのない関係を取り戻す希望まで失うということ。
- 4 自分が相手に対して嘘をつくとき、自分が望むままに自由に行動できるかわりに、嘘をつく前には戻れないという苦しみにとらわれることになり、相手との偽りのない関係まで失われるということ。

(カ) ―線5「自分自身に対して自由な態度をもつ」とあるが、それを説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 さまざまな思い込みや恐れにとらわれることなく、本当のことを言おうという気持ちに沿って、自分らしくあるうとしているということ。
- 2 さまざまな思い込みや恐れにとらわれて、自分の気持ちを押し殺しており、本当のことを言わないという意志を強くもつということ。
- 3 さまざまな思い込みや恐れを気にすることなく、自分と相手の気持ちを大事にしており、嘘によって不都合を取り繕っているということ。
- 4 さまざまな思い込みや恐れをこえて、相手の気持ちを大事にして自分らしさを抑えており、本当のことを話そうとしているということ。

(キ) 本文について説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ボルノーの考えを用いて、正直とは本当のことを話そうとする意志にこだわるのではなく、自分も他人も傷つかないようにする生き方だということを、正直と率直の違いを述べながら論じている。
- 2 ボルノーの考えに基づき、正直とは自分を大事にしつつ、自分を失うことと自分らしくあるうとするこの間で悩まずにいずれかにとどまることだということを、嘘を話題に用いて論じている。
- 3 ボルノーの言葉を引用し、正直とは他人を傷つけないように自分の本心を隠しつつ、自分の内面を語りたくなるときに思いとどまる生き方だということを、身近な出来事を例に用いて論じている。
- 4 ボルノーの考えをふまえ、正直とは嘘によって自分を失ってしまう可能性と自分らしくある可能性の間で葛藤し、自分らしくあることを切望することだということを、具体的な場面を例に論じている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

魯(注)の国の法に、その所の者、他国へ行き、奉公して帰ることならざる者を、誰(注)にてもあれ、その奉公人

を(借金を肩代わりし)買ひ取り、故郷へ戻せば、君(君主)より御褒美の金を下さるる作法なり。ある時、子貢(注)、魯の国(注)の者を買ひ戻

しけるが、御褒美の金は取るべきことにあらずとて、辞退(注)しけるに、孔子(注)これを聞きたまひ、「辞退いた

すこと、沙汰(とんでもないこと)の限りなり。」とて、いましめ仰せけるは、「一人の行跡よきとて、おしなべてならざるこ

とは、せぬものなり。当時(今)はなすとても、後代までならざることも、せぬものなり。いま、魯の国、富め

る人は少なくして、貧しき人は多し。しかるに、『子貢が褒美の金を取らざるは、無欲にて見事なり。』など

と取り沙汰し、かさねて、褒美を取らぬ者多くなりゆかば、後々はいつとなく、奉公人を故郷へ買ひ戻す

者もなかるべし。さあらんときは、国のためにもならず、風俗悪しくなるべし。」と、いましめたまへり。

しかるに、子路(注)は、またあるとき、河のほとりを行く(ア)に、水におぼれたる者ありければ、急ぎ駆けつけ、

引き上げけるに、その人、「いのちのおやなり。かたじけなきこと限りなし。」とて、持ち合はせたる牛を

おくりけるに、子路辞退にもおよばず、やがてもらひけり。孔子これを聞きたまひて、「子路が牛を

受けしは、子貢が金を取らざるより、はるかにまさりたり。子路にならひて今より後、水におぼるる者を

すくふ人、多からん。」とぞ仰せける。

俗眼より論ぜば、「子貢は無欲なり、子路は欲あり。」など、言はんずれども、聖人の後世をおもんばか

りたまふ上智、いとありがたきことなり。

〔智恵鑑〕から。

(注) 魯Ⅱ古代中国の国の一つ。

子貢Ⅱ孔子の弟子(前五二〇～前四五六?)。魯で活躍した。

孔子Ⅱ中国の思想家(前五五一～前四七九)。「聖人」と称される。

子路Ⅱ孔子の弟子(前五四二?～前四八〇)。

(ア) 線ア～エの中から、他と主語が異なっているものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ア 2 イ 3 ウ 4 エ

(イ) 線1「辞退しける」とあるが、そのときの「子貢」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 魯では、他国の使用人をやめて帰国した者が魯の君主に金を渡していたが、「子貢」は断った。
- 2 魯では、使用人を魯へ帰らせると魯の君主から金をもらえたが、「子貢」は受け取らなかった。
- 3 魯では、使用人を魯から他国へ帰す際に魯の君主に金を渡していたが、「子貢」は払わなかった。
- 4 魯では、使用人を魯から他国へ帰す際に魯の君主から金をもらえたが、「子貢」は要求しなかった。

(ウ) —線2「いましめたまへり。」とあるが、そのときの「孔子」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 誰もができるわけではない行動や後々にするのが難しいことはしてはならず、「子貢」の行動をまねる者が多くなったら、無理にでも使用人を帰らせようとする者が増えて人心がすさむと警告した。
 - 2 誰もができるわけではない行動や先々にするのが難しいことはしてはならず、「子貢」の行動をまねる者が多くなったら、使用人を帰国させる者が多くなって人口が増加し風紀が乱れると注意した。
 - 3 誰もができるわけではない行動や後の時代まで続かないことはしてはならず、「子貢」の無欲さをまねる者が増えたら、貧しい者の多い魯では誰も使用人を帰国させなくなり風紀が乱れると警告した。
 - 4 誰もができるわけではない行動や将来にはできなくなることはしてはならず、「子貢」の無欲さをまねる者が増えたら、金持ちの多い魯でも使用人を帰国させなくなって人心がすさむと注意した。
- (エ) —線3「多からん。」とあるが、そのように言ったときの「孔子」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 人助けとして牛を差し出したという「子路」の行動が、よい行いだとして世間で評判になったことで、これからは多くの者が「子路」をまねて困っている人に何かをあげるようになると考えている。
 - 2 人命を救った「子路」がお礼として差し出された牛をもらわなかったことで、立派な人であるという評判が立ったので、これからは「子路」をまねてお礼を断る者が多くなるだろうと考えている。
 - 3 人命を救った「子路」が一度断ったあとにお礼の牛を受け取ったため、一度断ることを立派な行動だとする意識が世間に広まるので、今後はお礼をすぐには受け取らない者が増えると考えている。
 - 4 人助けをして牛をもらった「子路」の行動から、よい行いをしたときはお礼を受け取ってもよいという認識が世間に広まり、今後は多くの者が「子路」をまねて人の命を救うようになると考えている。
- (オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 世間の人々は褒美をもらわなかった「子貢」を無欲として、見返りを受け取った「子路」を欲張りだとするだろうが、「孔子」は後の世の中への影響を考えた上で、「子路」を高く評価している。
- 2 世間では褒美を断った「子貢」よりも、見返りを受け取った「子路」の方をすぐれていると評価するだろうが、「孔子」は後世にどのように伝わるのかを考え、「子貢」のことを高く評価している。
- 3 世間の見方は、見返りを受け取った「子貢」が欲張りで、褒美をもらわなかった「子路」が無欲だということになるが、「孔子」は後世への影響を考えた上で、「子路」のことを高く評価している。
- 4 世間の人々の考え方では、「子貢」を無欲と見なして、「子路」を欲張りだとすることが多いだろうが、「孔子」は後の世の中への影響を考え、両者の行為についてどちらも高く評価している。

(問題は、これで終わりです。)

